

「食肉通信」2011年7月5日号にて、日清丸紅飼料株式会社の「ハーブ事業15周年」の記事が掲載されましたので、ご紹介します。

第2948号 (第3種郵便物認可)

日清丸紅飼料

飼料業界のリーディング・カンパニーとして進取の姿勢で業容拡大を続ける日清丸紅飼料。その商品開発力とブランド戦略の実践により、生産から食物流通段階に至るまで幅広い局面で評価を獲得している。

同社のブランドとして確立したハーブ事業は、15周年を迎える。統括事業「ハーブ村」を立ち上げ、ハーブ飼料とハーブ畜水産物の開発販売、サポート事業を展開

飼料業界のリーディング・カンパニーとして進取の姿勢で業容拡大を続ける日清丸紅飼料。その商品開発力とブランド戦略の実践により、生産から食物流通段階に至るまで幅広い局面で評価を獲得している。

同社のブランドとして確立したハーブ事業は、15周年を迎える。統括事業「ハーブ村」を立ち上げ、ハーブ飼料とハーブ畜水産物の開発販売、サポート事業を展開



東日本を含むトンカツ浜勝全店舗でハーブ豚がメニュー化された

る。

基幹商品の「ハーブ豚」の生産量は年間出荷18万頭まで増強。健康志向とおいしさが支持されているのももちろんのこと、販売先へのキメ細かなサポートにより商品の付加価値を高めていることが結実し、年間15万頭

の「どんかつ浜勝」の再強化する。生産農場が九州・中国地域でブレミアム銘柄の位置付けでハーブ豚がメニュー化されてきたが、その実績が評価され、信頼を裏切らないためにも改めて内容の充実に注力していく」と強調する。

たとえば、量販店では「飼料の物流コスト負担は大きいですが、供給(信頼)を切らさない対応により、差別化ブランド豚を供給する立場として責任を果たすことができたと思う」

「また、東北産ハーブ豚については、と畜場や輸送燃料の問題で供給が厳しい状況もあったが、生産農場、と畜場、流通関係先の強力な協力により輸送体制も確立し、ハーブ豚供給を継続することができた。今後もハーブ豚の安定した生産供給体制を継続していきたい」としている。

ハーブ事業15周年に

販売先のサポート充実

のハーブ豚を供給している。大手量販店のユニークなPBとして供給されている「悠健豚」は発売から4年が経過し、順調な定着をみせ、ほぼ全店で導入されている。リピート率が高いとの評価があり、「悠健豚」の加工品なども製品化された。

外食ではリンガーハット

の「どんかつ浜勝」の再強化する。生産農場が九州・中国地域でブレミアム銘柄の位置付けでハーブ豚がメニュー化されてきたが、その実績が評価され、信頼を裏切らないためにも改めて内容の充実に注力していく」と強調する。

たとえば、量販店では「飼料の物流コスト負担は大きいですが、供給(信頼)を切らさない対応により、差別化ブランド豚を供給する立場として責任を果たすことができたと思う」

「また、東北産ハーブ豚については、と畜場や輸送燃料の問題で供給が厳しい状況もあったが、生産農場、と畜場、流通関係先の強力な協力により輸送体制も確立し、ハーブ豚供給を継続することができた。今後もハーブ豚の安定した生産供給体制を継続していきたい」としている。